

大学図書館 展示

「大学図書館のお宝、お見せします。」

■跡見学園女子大学

<Girl! Girly!! Girlish!!!>

本学図書館では、森鷗外、夏目漱石などの近代文学コレクションがあるが、今後文芸の新たな展開に示唆を与えるジャンルを模索している中で、近代文学専攻の教員から『**文藝ガーリッシュ 素敵なお本に選ばれたくて。**』（千野帽子/著 河出書房新社 2006）と共にガーリッシュ文学というジャンルを紹介された。

女子大学である本学ではこれまで「女性」「婦人」に関わる資料は様々所蔵していたが、「ガーリッシュ」をきっかけに、上記図書著者千野帽子氏とは別の切り口で「少女文学」を見直そうと試みたのが今回の展示である。

「少女文学」をいくつかの側面に切り分け、単に甘いだけではない「少女」の世界を展開してみた。あわせて、最近のファッション誌における「ガール」の定義がさまざまに揺れながらしかし独特の展開を見せていることも提示しようと試みた。



■国立女性教育会館

<アイデア実用化の達人・九重年支子氏資料>

独立行政法人国立女性教育会館女性アーカイブセンターは、手織りの一種である「九重織」の創始者であり、女性発明家の草分けと

して婦人発明家協会の創設に関わり、国内外で広く活躍した九重年支子（このえとしこ・1904-2002）の資料を展示した。

コートや敷物などの大きな織物作品を壁面に吊り下げ、本人写真、人物概略および年表、展示したコートを着用した当時のモデルの写真とともに展示した。展示台には発明品である卓上織機、カード式織機、九重織カリキュラム冊子と織物見本（帯締め、ネクタイ、ハンドバッグなどの小さな織物作品）、実用新案登録証、外国で取得した特許証書、フランスの雑誌による紹介記事などの資料を3つのコーナーに分けて展示した。

今回は九重織による布、木材、紙資料と多様な素材、色彩的にも豊かな展示となった。華やかで温かみのある展示物は、じっくり鑑賞する方にも、熱心な質問者にも対応できた。作品はどれも時代を感じさせないデザインで、来場者は一様に驚きと親しみを持ち、数多くの興味をひいた。

これらの展示資料は、平成23年11月現在、国立女性教育会館本館1階の女性アーカイブセンター展示室にて資料を追加、入れ替えし展示・公開している。



■芝浦工業大学

<古書で見る工学の歩み>

芝浦工業大学は標記のテーマで、貴重書である工学系の初版資料『流体論』（マリオット/著、1686年、パリ刊）、『電気の物理学的研究』（マラー/著、1782年、パリ刊）と茶室起こし絵図を出展した。

マリオットは、気体の体積と圧力が反比例するという法則(ボイルの法則)をボイルとは別に発見した物理学者で、母国フランスではこの法則は「マリオットの法則」と呼ばれている。『流体論』はタンクから一定流量の液体を流出させる仕組みに関する偉大な業績のひとつで、工学研究の原点とも言える。また、『電気の物理学的研究』は、マラーが当時受け入れられていた主要な理論を批評し独自に研究した成果を212項目にわたって述べている図書で、工学分野の大変貴重な資料である。

一方、茶室起こし絵図は、京都・麓苑寺夕佳亭のものを展覧した。起こし絵図とは、建築物の説明のために江戸時代に作られた立体的な設計図のことで、会場でも多くの人の目を引いていた。



本学図書館広報誌『OH! MY LIB CAFÉ 図書館の防災～被害と取り組み～』を展示した。東日本大震災後の図書館の様子や3キャンパス(大宮、豊洲、芝浦)の建物の構造について特集したものである。学生からも興味を持たれた広報誌であった。図書館での防災対策に関心を示している人が多く、情報交換の場となった。

■城西大学

<日本近代漫画の先駆者—北沢楽天—>

埼玉県大宮宿(現さいたま市)出身の北沢楽天は、明治32年に福沢諭吉が創始した新聞「時事新報」に絵画部員として入社。明治35年には同紙の日曜特集欄「時事漫画」を手掛け、当時「ポンチ絵」「おどけ絵」と呼ばれ

ていたものが「漫画」と呼ばれるようになった。明治から昭和にわたり、庶民の生活や世相をユーモラスに表現した数々の作品は、現代にも通じる。今回の展示では時事新報附録「日曜畫報」の大正11、12年発行のものをご覧いただいた。

【主な展示品】

「婦人参政権」(第94号)、「加藤首相の腹の虫」(第95号)、「時の力」(第97号)、「商界の相撲」(第99号)、「落第したがる学生」(第110号)、「世はさまざま」(第115号)、「茶目と凸坊」(第122号)



■女子栄養大学

<ガクシヨク シャシヨク バランスメニュー>

本学は「食による人々の健康の維持・改善」を建学の精神に掲げており、図書館では栄養学を中心に医学分野、食文化や食育に係わる資料を収集してきた。今回は「食べておいしく、身体にうれしい」食事として、各種メディアで話題になっている“学生食堂”や“社員食堂”に関連する資料を展示した。



【展示資料】

・学食・社食の歴史紹介パネル

大学図書館 展示

- ・ブームとなった“タニタ”をはじめとした社食メニューブック
- ・本学をはじめ大学の学食メニューブック
- ・学食・社食に関する卒業研究、雑誌論文
- ・その他 「食品成分表」本学出版部刊 等

【配布資料】

- ・展示資料一覧および「大学食堂のあり方」
（『栄養と料理』掲載 香川綾（本学園創設者）
リーフレット
- ・健康さわやかカード・・・四群点数法による
バランスの良い食事法を紹介

来場者からは「バランスの取れた学食や社食をいちど食べてみたい」といった声が多く聞かれ、また、メニューブックを手にとって熱心に読む姿も見られた。健康的な食事に対する関心の高さを強く感じた展示であった。

■聖学院大学

くまのぬいぐるみと子どもの関係～テディベアを中心に～

今回の展示は、教員とのコラボレーション企画という形で実施した。本学児童学科教員の永井理恵子先生監修のもと「くま」の持つ魅力や、「くま」を主人公とする絵本、ぬいぐるみなどを展示した。

「くま」が擬人化されやすく、キャラクターとして愛される理由は、仔熊の愛らしさや母熊の愛情の深さ、さらには人間の手のように器用に動かす前足といった「くま」本来が持つ性質にあるといった研究の成果と、「ぬいぐるみ」の歴史、さらには「くま」を主人公とするお話や絵本を紹介した。その場で絵本を読みふける子どもや、思い出話をされる方などそれぞれに楽しんでいただけたようだ。

また今回特別に永井先生所有の貴重なテディベアや、キャラクターのくまのぬいぐるみなども合わせて展示。そのかわいらしさに多くの来場者が足を止めていた。

あわせて、もう一件 “「図書館なう」っ

てつぶやこう！～新しい図書館広報～」というテーマに関連する展示を行なった。図書館が必要なものを「備える」というだけではなく、そのことを「知らせる」ということを大切な役割として、本学図書館の新しい試みとして始めた Twitter や web 本棚のブクログなどの情報発信活動を紹介した。



■大東文化大学

＜見たことある！アジアの言葉＞

大東文化大学では学部によりいろいろな言語を教授している。その中で国際関係学部はアジア地域に特化した教育を実施しており、中国語、コリア語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語、ヒンディー語、ウルドゥー語（パキスタン）、ペルシア語、アラビア語（エジプト）の9言語を教授している。今回はそれぞれの言語の文字を紹介するため、担当教員自筆で各地域のあいさつを紹介し、各言語の図書を展示した。



また、言語関係の国際関係学部教授2名の業績を紹介した。1人目の片岡弘次教授は、2010年3月パキスタン・イスラム共和国より「シターラ・エ・イムティアーズ（輝ける星）勲章」を受章された。2011年10月には、教授が訳したムハンマド・イクバル著『ジブリールの翼』が第47回日本翻訳出版文化

賞特別賞を受賞した。この翻訳本も展示した。

2人目は、アラビア書道の国内第一人者である**本田孝一**教授である。教授は、2000年トルコのハッサン・チェレビー師よりアラビア文字の書道印可「イジャーザ」を授与された。また作品が大英博物館に2005年4月から約半年間展示され、作品3点が永久所蔵品となっている。このアラビア書道の図書と、アラビア文字を書くためのペンを展示した。

■東洋大学

<東洋大学所蔵の貴重資料の世界>



東洋大学からは、H23年度に開設50周年を迎えた川越キャンパスの学問領域にちなんだ理工系資料と、H24年度に創立125周年を迎えることから学祖**井上円了**にちなんだ本学所蔵の貴重書（複製）を展示した。

前者では、**レオナルド・ダ・ヴィンチ**の「**パリ手稿**」「**鳥の飛翔に関する手稿**」（ファクシミリ版）を展示した。内容は軍事技術、光学、幾何学、鳥の飛翔、水力学など様々で、これらの科学的領域に関する多くの緻密なデッサン、アイデアを書きとめた鏡文字（左右逆さまに記載）は、芸術分野だけでなく多岐にわたる彼の才能が感じられる資料である。

妖怪の学問的研究を創始した学祖**井上円了**にちなんだ本学所蔵の貴重書からは「**化物(ばけもの) 婚礼絵巻**」（複写）を展示した。巻物の形状に再現し、時系列で巻物の場面ごとにキャプションを添えて物語がつながるように展示した。内容は妖怪のお見合いから結婚・出産・お宮参りを描いたもので、当時子供たちに婚礼にまつわる風俗を教える意味があっ

た「狐の嫁入」等草双紙にルーツが見出せる資料である。

■文教大学

<墓の中からべらぼうめ!! 俺の蔵書を見ていきな -清明文庫->



勝海舟は文政6年（1823）、江戸・本所に生まれた。幕末史に大きな功績を残したことは周知のとおりである。

海舟が晩年を過ごした別邸「洗足軒」は、品川区の文教大学旗の台キャンパスに程近い、現在の大田区南千束・洗足池畔にあった。本邸は赤坂にあったが、明治24年（1891）この地に別邸を構える。生前より墓を池のそばの丘に建立し、没後数年して、当初青山墓地に埋葬された妻ともにここへ改葬された。墓所の裏手には、海舟の蔵書を管理するために日蓮宗系の財団法人「清明会」が昭和3年（1928）に建設し、図書館としては5年後の昭和8年

（1933）に活動を開始した図書館兼講堂「**旧清明文庫**」（現在の名称は**鳳凰閣 国登録有形文化財**）がある。

その後、縁あって本学に託された清明文庫旧蔵図書は、海舟の旧蔵書を含め約850点を数える。文教大学の前身である立正学園が、清明文庫と直線距離にして1.5キロの距離にあり、同じ日蓮宗関係の組織であった関係で託されたものと思われる。今回はその中から、海舟の蔵書印や、自筆とみられる朱書があるもの、また海舟の旧蔵書以外では、近代に刊行された幕末の偉人の著作などを展示した。